



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだより

第178号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

2010年9月9日発行

編集・発行：情報委員会

POSITIVE AGING

2010～11年度テーマ 「遊び心・学ぶ心・奉仕の心」で、クラブは今年も進化します

第178回例会

日 時：平成 22 年 8 月 12 日(木) 12:30～15:30

場 所：八王子エルシイ

出席者： 59 名 出席率 86.8%

(会員総数 68 名、休会 0 名)

1. 東山例会委員長の司会で開会

2. 杉山会長挨拶

本日は 8 月 12 日です。

今日は先の大戦の終戦記念

日 8 月 15 日に因んで、終

戦直後の食糧難の時代を思い出し、昼食メニューに「すいとん」を用意させて頂きました。(もっともエルシイさんの「すいとん」は当時とは比べ物にならないほど上等ですが。)

因みに、太平洋戦争では赤紙一枚で召集された兵隊さんの外地での戦死者の数は 310 万人といわれています。また、アメリカ空軍による東京への空襲は、昭和 19 年 11 月 14 日から翌年の終戦までに、何と 106 回、東京の被災者は 100 万人超です。そして、20 年 8 月 6 日、ついに広島に原爆投下、直後の 9 日には長崎に原爆投下です。当時、広島の人 42 万、長崎 24 万人ですが、その後 5 年間の原爆被害での死者数は広島 24 万人、長崎 14 万人といわれています。また、20 年 3 月から 6 月に亘る沖縄内戦での戦死者は、10 万人近い民間人を含んで 20 万とも 24 万とも言われています。今日の日本の平和社会は、正しくこうした先人たちの尊い命の犠牲の上に成り立っていることに思いを致し、今日の平和な時代に感謝しながら、このランチタイムを過ごしたいものと思いました。どうぞ宜しくお願い致します。



3. 来賓紹介

東京八王子南 RC パスト会長 広瀬 武彦様

東京町田サルビア RC

パスト会長 志水 勇祐様

相模原南 RC パスト会長 岩崎 正三様

東京日野 PC 設立準備委員会

委員長 篠原 昭雄様 同委員 菊池 昭雄様

奥 修兵様 澤田 研二様

来賓挨拶

篠原 昭雄様

本年 10 月に日野市にプロバスクラブを立ち上げよう

と、5 月より準備委員会を開き、準備をして参りました。その間、八王子プロバスクラブの皆様には、いろいろご指導を頂き、準備が軌道に乗ってまいりました。今後ともよろしくご指導のほどお願いいたします。



4. 会食

終戦を偲び、「すいとん」を頂きました。

5. ハッピーコイン披露・バースデー報告



杉山会長から、ハッピーコインの披露(詳細: 5 頁 24 件)に引き続き、8 月のバースデー報告がなされました。今月は、佐々木正、大高秀夫、八木啓充、阿部和也、宮崎浩平、竹内賢治、山下安雄の 7 名に、池田ときえ会員手作りの美しいバースデーカードが会長より贈られました。

6. 新入会員紹介

新会員 野口 浩平氏

(会員番号 122)

所属 会員委員会



推薦者 川村 真会員（プロフィール紹介）

現役時代、(株)ダイコーで活躍。その間40年にわたり、ユースホステルの運動を続け現在に至る。また400回以上の献血を実施。趣味は旅行で、退職後、奥様と一緒に4～50回世界をめぐる個人旅行に行かれた。

7. PC創立15周年事業について

宮崎実行委員長



10月17日(日)は皆様全員で記念すべき15周年を祝いたと思いますので、ご協力下さい。会場の市民会館は

2,000人が、収容できますので会員の皆様にはお知り合いの方等、前もって呼びかけてください。参加申込用紙の回収も会員ご自身でお願い致します。

記念式典、レセプションは、150名参加の催しを計画しています。会員は全員登録とし、5年に1度のイベントを盛りあげましょう。

会費 会員 10,000円(9月例会徴収)

お客様 8,000円

8. 幹事報告 澤渡幹事

- 1 15周年記念事業について3つのお願い
 - ・全員で仕事の分担
 - ・市民会館での催しへの集客のお願い
 - ・エルシィでの記念式典への協力を
- 2 新会員の野口浩平さんは、400回以上の献血、敬意を表します。
当クラブへ奉仕の心を伝えてください。
- 3 広報パンフレットが完成
15周年記念事業の一環として矢島一八木グループで作成。広報活動、新入会員勧誘用に活用。
- 4 日野PC設立準備委員会の4名の方が、本日の例会にお見えです。
10月5日の設立総会にて正式発足します。
当クラブも15周年記念事業の一環として応援しています。記念式典には当クラブからも積極的に参加をお願いします。
- 5 いちょう祭りの日程が決まりました。
11月20日(土)、21日(日)

6 アンケートのお願い

- ・地域奉仕委員会 学習サロンアンケート
(サロン話し手、野外サロン)
- ・幹事 当クラブの今後についてのアンケート
(今後のプロバスクラブのあり方、子供への奉仕活動について)

9. 各委員会報告

例会委員会 東山委員長

出席者 59名 欠席 9名

会員総数 68名 (本日1名の新会員)

情報委員会 吉田委員長

プロバス日より第177号をお届けします。

- ・過去の記事は記録として残す
- ・投稿記事に注力
- ・つぶやき(新しいコラム)を新設

会員委員会 川村委員長

会員名簿をお配りしました。

研修委員会 土井俊玄委員長

- ・卓話予定の久野さんが、急きょご都合が悪くなりましたので、8月15日の終戦記念日を迎えるにあたり、どの様に過ごされたかを7人の方々に話し頂きます。
- ・出前講師のリストアップをすすめますので、ご協力ください。
- ・11月11日半日程度で親睦と研修の会を「夕やけ小やけふれあいの里」で開催します。

地域奉仕委員会 下田委員長

生涯学習サロンのアンケートを提出して下さい。

交流担当 山崎理事

ありません

10. 同好会活動報告

ゴルフ同好会

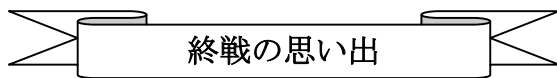
9月28日 武蔵野ゴルフクラブで開催。

11. その他

古川純香会員が、『ハナ動く』という題で、お茶・お花の物言わぬ道具を漫画形式でまとめた本を出されました。

12. プロバスソング斉唱

13. 閉会の挨拶 佐々木研吾副会長



昭和20年8月15日、どんな終戦を迎えたのか、
7人の方に話をさせていただきました。

渋谷 文雄 会員

戦前、旧満州国新京(今の長春)にある学院に進学、3年目の1945年7月半ば、学徒動員で朝鮮国境に近い安東(今の丹東)の西約2百キロほどの県に派遣された。



敗戦の玉音放送は知らず、急遽撤収せよとの連絡を受けて、中国人の服装に着替え8月21日、安東に到着。敗戦を知り朝鮮を経由するべく帰国を計ったが、国境の鴨緑江は閉鎖され、安東の町は北の各地から引揚げてくる人達でごった返し混乱を極めていた。

特に北の開拓団の人達は暴徒に襲われたり、ソ連軍に凌辱のかぎりを受けて悲惨の限りであった。長春から彼らに同行した学友によれば、夜間の密かな逃避行では声も立てられず、中には生きている乳飲み子を川に捨てざるをえなかった人や、泣く子供を「殺して下さい」と頼まれ首を絞めて殺したが「異常な環境下であったとは言え、8月になると首のぬくもりの感触が蘇ってきてつらい」と今も嘆いている。

その後、国共内戦に巻き込まれ、担架兵などの使役として抑留されたが、朝鮮戦争が始まって現地解放となり、以後、現地に抑留されていた技術者や研究者たちの子弟を対象とした日本人学校の開設に携わり教師として過ごし、1953年秋、帰国した。昨年、57年ぶりに同時通訳として活躍中の教え子と感動の再会があった。

大野 聖二 会員

私の生まれは昭和2年1月です。その前年、大正15年に父が、郵便局長を拝命した



ので、私は生まれながらにして、郵便局長を継ぐのだということで、二商に行くことを決められていました。昭和18年5月、学徒動員令が出て、実業学校の生徒は、卒業したら軍隊に行くか、会社に入れとの指示でした。それである行きつけの本屋に行きましたら、そこのおじさんが、「あんた学生さんかね。この戦争は負けることが決まっているから、急いで戦争に行っちゃいけない。戦争が終わってからが大事だから、勉強をきなさい」と言われました。その方が橋本鋼二さんのお父さんでした。たまたま理科系の専門学校の補欠募集があり、入れて頂きました。入ってすぐの1学期の終わりに、学徒動員があり、名古屋の先の半田市の飛行機工場で飛行機作りをしました。その時、幸か不幸か「祖父危篤」の電報が入ったのですが、帰宅の許可が出ず、「祖父死す」の電報で家に帰りました。その際、今後の事を相談したのですが、「戦争は負けるにきまっているが、来年、徴兵されるだろう。その時2等兵で死ぬのはさびしいから、せめて将校にでもなって死のう」と、勉強をするため、学校を中退して、夜間部に移りました。

昭和20年8月、八王子大空襲があり、はじめに幼年学校が襲撃され、そのちかくの自宅の郵便局も焼けてしまった。それで、しばらく郵便局を手伝おうという気になりました。15日になり、玉音放送があり、やがて父が「日本が負けた」と言っていました。私は「負たのか」という悔しいという気持ちと「死ななくてすんだ」という気持ちが入り混じった複雑な心境でした。9月になって、学校に行ったら、英語の教授が哲学の話をしてくれ、「自分の生きる道は自分で考えること」を自覚しました。終戦は自分にとって画期的なことで、哲学によって自分の意識を越えたあるもの、実存の存在を知ったことが、人生の役に立っています。

佐々木 研吾 会員

私は終戦の時、13才、旧制秋田中学の1年、今の中学校とはまったくイメー



ジが違いました。学校に入ってから、しばらく授業がありましたが、すぐ勤労働員に駆り出されました。行先は国鉄秋田機関区で、北海道から運んできた石炭を男鹿半島の船川港に陸揚げし、秋田まで運ばれてきたものを機関車に積み上げる作業でした。中学1年の自分には体力がなく、まったくの重労働でした。情けないことに、機関車が入ってくるのに石炭がない時があり、こんなことでいいのかと思いました。楽しみは馬の飼い葉桶のような入れ物に入った大きなおにぎりを食べたことと、石炭のかすでどろどろになったお風呂に入ったことでした。帰りにグラマンの機銃掃射を受けたこともあり。中学の時は、軍国少年で軍隊に行くなら幹部になったほうがいいと思い、幼年学校に行こうと学校の選抜試験を受けましたが落ちました。

8月14日、終戦の前夜、日本石油の秋田製油所という石油精製基地がB29によって徹底的に破壊されました。ただ日本はポツダム宣言受諾の通告をしていたので、町への焼夷弾爆撃はなかったのですが、自宅近くの港に爆弾が投下され、港から100メートル位離れた自宅も半壊してしまい戦災者となりました。

8月15日の昼の玉音放送を自宅で親父と一緒に聞きました。親父が泣いたのはその時だけです。本当に慟哭しました。親父は、昭和18年ごろから、「今度の戦争は負けるよ」と言っていました。親父は歴史の教員をしており、自分の研究をまとめた著書があり、それが占領軍の目に触れたのか、公職追放令により、軍国主義を鼓吹したものは公職を去れということで、職も恩給もなくなり、中学もやめなければと考えたり、親父の蔵書を解体して、りんごの袋張をしたりしました。そのうち異議申し立てが通り、親父は教員を続けることができました。この戦争は私の人生に大きな影響を与えました。戦後65年経って戦争を知らない人達もいます。

戦後しばらくは混乱の時代が続いたあと、昭和35年(1960年)頃から日本は繁栄しますが、戦争の悲惨さを噛みしめていくことが大切だと思います。

有泉 裕子 会員

終戦の日、昭和20年8月15日のことは、小さい時でしたので、あまり覚えていません。私は昭和16年5月生まれ、終戦の時は4才でした。少し覚えていることは甲府の空襲の日のことです。何時だったかは覚えていませんが、家が開け放たれていた記憶がありますので夏だと思います。

家は甲府から南に20キロほど離れたところ。父は教員だったのでいち早く学校に行きました。母とおじいさん、おばあさん、叔母さん、叔父さん、弟と私達は甲府から離れているとはいえ、何時焼夷弾がおとされるかわからないので赤ちゃんだった弟は母に背負われ、私は当座の荷物を積んだりヤカーに乗せられ、いざの時には、皆で一緒に逃げる準備をしていました。

甲府は周囲が山で囲まれ、私の家は甲府の南側の山の麓の方ですので、甲府方面が真っ赤に夕焼けのように見えたのだけを強烈に覚えています。



矢島 一雄 会員

私も佐々木会員と同年齢の昭和7年生まれ、終戦のときは最後の学徒動員を受け、八王子駅におりました。当時は、戦況の悪化によって適齢期の男性は全て軍隊に招集され、その補充に女性や、多くの学生が動員されていた。

八王子駅にも周辺の学校から多くの学生が動員され、改札係などの駅務員は、ほとんどが学生でしたし、電車の車掌なども全て女性で占められていた。又、駅前を走る路線バスは背中に大きな籠を背おった中に薪を入れ、もうもうと煙を吐きながら走る木炭バスでしたが、その運転手も女性でした。

まさに1億総動員体制の中、私が配属された職場は電力区といって、鉄道の電力の供給と施設の維持管理を担当する職場でした。先輩に連れられ、腰には重いペンチやドライバーなどの入った七つ道具のベルトを下げ、竹梯子を背負って各駅の電気施設の保守管理をする仕事でした。



八王子駅が米軍のP 5 1 戦闘機の銃撃を受けたときは、跨線橋下の変電室に身を隠し、敵戦闘機が去った後外に出てみると、そこには、コンクリート壁に無数の弾痕が刻まれ、線路には機銃弾の薬きょうが散らばっており、まさに、一命を取り留めたとの安堵感に浸ったのを覚えている。

終戦の日は、朝からなんとなく職場の空気が緊張していた想いがあったが、昼になると全員がホームに集められ玉音放送に聴きいった。直後に職場長から、「学徒は至急学校に戻るように」と指令が出され、「うれしいやら、悔しいやら」の悲喜こもごもの思いをしたのが昨日のように蘇る。

石井 充 会員

8 月 15 日には、私は当時八王子にありました東京陸軍幼年学校という所におりました。学校が焼けた後、負けた日に校庭でフランス語をやっていました。

何故フランス語なんかをやっていたのか。いまでも覚えているのですが

「ジュ・シュイ、トゥ・エ、イレ、ヌ・ソム、ヴ・ゼット、イル・ソン」。

こればかりやらされていました。

おかしい学校があったものですが、本当の意味での学校だったのかもしれない。

教練も体操もろくにやらず、フランス語ばかりでした。

これがどういうことなのか、皆様のご想像にお任せします。

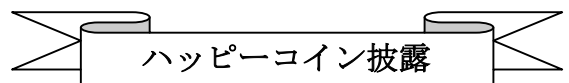


八木 啓充 会員

終戦の時、私は12才、小学校3年生でした。私には終戦よりももっと強烈な出来事があります。それは、8月1日の晩、八王子空襲があり、焼けてしまったことです。その1週間前、八王子も危ないらしいというので、元八王子(今の川町)に母、妹達二人、私と4人が疎開をしました。私の家は、今私が丁度立っている此处、八日町4-45で生まれました。



8月2日の朝、とるものもとりにあえず、妹達をリヤカーに乗せ、母と歩いてきました。水無瀬橋を渡ると、八王子は焼け野原と言うよりも、残渣置場のようでした。追分交差点まで来ると、リヤカーは熱でパンクしました。八日町・大横町の交差点と思えるところまで来ましたが、瓦礫の山です。途中で何人か黒こげの人も見ました。大変なショックでした。家の人たちもどこに行ったか分かりません。池のある子安神社には大勢が集まっていました。そこで家で働いている人に会い、立川の母の実家に皆がいてと聞き、妹達を乗せ、パンクしたリヤカーを引いて立川の曙町まで行きました。今考えると、火事場の馬鹿力というより、戦災の馬鹿力というすごい力を出したものです。着いたのは、午後2時か3時、今ではペットボトルを飲まないで熱中症になるところでしょうが、当時は、なりませんでした。昼の食事食べていませんでした。このように終戦より、強烈な印象に残ったのは、8月初めの空襲です。その後、子安にちょっとした家があったので、八王子に戻り、そこで8月15日を迎えました。これから私の一生はどうなるのかな。放送を聞いて、そう思った次第です。



◆ アフタヌーン コンサートでご来場ありがとうございました。お蔭様で無事終了いたしました。 大高 秀夫

◆ 支えられ生かされてありがたし、お蔭様で下座(げざ)の心で元気に喜寿を迎える事が出来ました。有難うございました 大高 秀夫

◆ 孫娘が大学を卒業、就職、初めてのボーナス(寸志?)でプレゼントをもらった。

岡田 尚

◆ スイスのアルプスを訪ねて来ました。モンブラン 4,810m、マッターホルン 4,478m ユングフロウ 4,158m。コイン3枚です。(ちなみに富士山は3,776mです。)

渋谷 文雄

◆ 8月7日のアフタヌーン コンサートには、

クラブからもたくさんお越し頂き有難うございました。たのしいアットホームなコンサートでした。 立川 富美代

- ◆ 不穏な天候が続いて居ります。せめて、心平静にと願いながらも波風の多い日です。加齢と共に 古川 純香

- ◆ 8月は私の誕生月、一年間健康に感謝 宮崎 浩平

- ◆ 8月7日は私の80才の誕生日、心中複雑ではありますが先ずは自分におめでとう。

山下 安雄

- ◆ 小4の孫娘が平泳ぎを教えて、ときた。2時間程つきあったら、「こんなに泳げる様になると思わなかった」。爺冥利です。

吉田 信夫

- ◆ 弟に誘われて「弧高のメス」を観てきました。手術の場面が多く、下を向いていましたが、命の価値を知らされた映画でした。

阿部 幸子

- ◆ 町会長になって、はじめての町内の夏まつり、事故もなくお天気にもめぐまれ大成功でした。でも疲れた。 下田 泰造

- ◆ 私の主宰する地域合唱団「めだかの学校」が、八王子市民会館で行われた“老人クラブ芸能祭り”に初出場、優秀賞に入賞しました。

八木 啓充

- ◆ 明日（8月13日）からは「ひぐらし蝉」の鳴き始め！ ハッピー 荒 正勝

- ◆ 書芸展のご案内

9月3日～7日 いちょうホール

9月20日～25日 有楽町交通会館

題材は、“北里精神”で、それぞれ「叡智実践（えいちじっせん）」と「不撓不屈（ふとうふくつ）」です。ご高覧頂ければ、幸甚に存じます。 阿部 和也

- ◆ 恥ずかし乍ら麻雀同好会で、栄えあるブービー賞に輝きました。次回は、絶対？に優勝をねらいます。 東山 栄

- ◆ 多くのお客様をお迎えし、にぎにぎしく例会を開催できることに感謝。

どうぞ、またおいで下さい。 澤渡 進

- ◆ 今年の夏の酷暑もこたえるが、杉山会長並びに15周年の宮崎・立川両パスト会長の下(した)にいるのもかなり疲れる。澤渡 進

- ◆ 本日は町田と相模原からお二人のロータリアンと、日野プロバスケットボール設立準備会の委員の皆さんをお迎えしております。

ご臨席を歓迎して！！ 杉山 友一

- ◆ 本日野口浩平さんが入会いたしました。よろしく願いいたします。 川村 真

- ◆ もう少しで「言いえて妙」なる表現の「後期高齢者」。先ずは自身に「おめでとう」と申します。75年間ご苦労さま。

佐々木 正

- ◆ 子供達から誕生祝として、ウォーキングシューズを貰いました。 高取 和郎

- ◆ 1. 8月5日79回目の誕生日を迎えました 先はまだまだ永いです。

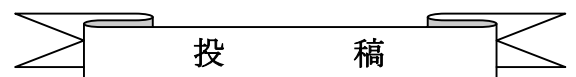
- ◆ 2. 母校の福井商業が三重いなべ学園に6：0で勝利し2回戦へ進みました。

竹内 賢治

- ◆ 8月10日我が家の3男に長女誕生、母子共にすこぶる健康、ハッピーハッピーです。

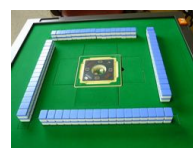
飯田 富美子

- ◆ 新潟中越地震の前日、平成16年10月22日、越後高田を発ち八王子に着いた私たちです。常々、老朽化が心配だったマイホーム（昭和55年9月築の中古戸建）の耐震改修工事が、やっと昨8月11日終了しました。建築士いわく、「60年保証の＜G Hハイブリッド制震装置＞です」と。然し、誰があと60年生きるの？新たな我が家の課題です。 山形 忠顕



麻雀のこと

有泉裕子



1月の例会時に、賭けない、飲まない 吸わない、初心者に親切、女性にはなおやさしくという「ボケないマージャン

同好会」をたちあげるといってお誘いに、願っても

ない機会と麻雀のことはなにもわからないままに仲間に入れさせていただきました。2月第2水曜日、会場である「びおら」で第1回目の同好会が開催されました。メンバーの皆さんはなんと昔、熱心に研究された方々ばかり、

初心者は私ひとりでした。もの凄い肩身のせまい思いでしたが、個人教授についていただき

「麻」の字も分からないまま四人の仲間入りをさせていただき、ゲームをさせていただきました。3～4時間はあっという間に過ぎてしまいなんかよく分からないけれど基本のルールが少し理解できたかなという感じでした。

そして皆が何より楽しみにしている時間、反省会びおらのママ手づくりの料理に飲み放題の2時間弱、いろいろな話に花が咲き楽しい時間、おおいにコミュニケーションが出来たことと思います。これから回を重ねるごとに良い結果「ボケない」ができる同好会になると思います。

私の当面の目標は個人教授のお世話なしであがれること、役・用語を覚えることです。



水盃（その1） 山形 忠顯

父と「水盃」を交わして別れて以来、65年が経つ。母と私たちは父の葬儀を3度行い、墓石には父の異なる2つの命日が刻字されている。私は平成4年まで、夜空を見上げては、もしやソ連の何処かで父もこの月を見ているのではないかと考えていた。

母は関東軍司令部参謀少佐の遺族、特務機関長の妻と白い目で見られ、非難され、責問され、時に職を追われ、子供3人を抱えて戦後60年、過酷な茨の人生を送った。私も子供の頃から軍人の子と指弾され、重要な場面（入学試験や結婚式等）で失意の底に落とされたことがある。母に父のことは「秘すべし、墓場まで」と諭され、努めて過去に触れず、父について語らず危うい場を凌ぎ、何とか65歳の公職の定年退職まで辿り着いたが、父の人生を敢えて看過し、冒涇しているの

ではないか、忸怩たる思いを拭えず、その重荷は長く、耐え難かった。

然し、リタイア後の今、此处、八王子に住居して「真に自由な時」を得、何ら名聞名利に煩わされることもない。私に残されたものは声楽演奏研究と学校教育教員養成に関わった50余年の知識と経験のみであるが、僅少なりとも、社会、地域、人々に奉仕し得る人生を送りたいと思う。

そして、父の生涯を偲び、その足跡を極め、父の心を我が心として生きていきたい。今後の活動に先立ち、自己紹介を兼ねて父の消息と私の人生の一端を記し、八王子を終の住処と思念している者の素顔を認知していただきたく願う。

1. 死亡告知書

昭和34年6月10日、東龍太郎東京都知事より『死亡通知書』（公報）が伝達された。内容は、「陸軍中佐山形求馬、戦病死、昭和21年7月1日、ウォロシロフ市」であった。母は昭和23～24年頃から各所で数多くの父の消息を聞いていたが、然と確定出来るものはなく、「何とか生きていてほしい」との思いから敢えて公報請求の届出をせず、耐えてきた。しかし、昭和31～32年の、最後と言われた第11次ソ連抑留者帰還の情報を見極め、遂に公報示達の請求届出をした結果、上記の次第となった。母は少人数の親戚、陸士46期生等で、遺骨の代わりに写真を掲げて簡素な葬儀を行った。

2. 33回忌法要

昭和22年春、ソ連では死刑廃止となったが、父の消息情報はそれ以後にあると聞き、母は迷い、悩んだ末、「昭和23年12月25日、ソ連戦死亡」として、昭和56年10月3日、33回忌法要を行った。12月25日は父の誕生日（明治44年）である。親戚、陸士同期生、ハルピン特務機関関係者が見えたが、この時、驚くべき情報が伝えられた。父の部下だった方が、「33回忌を行われる故、遺族の気持ちも区切りがついたであろう」と斟酌され、父の消息について記述された文献を渡された。前野茂著『ソ連獄窓十一年（二）』（講談社学術文庫 発行 昭和54年8月10日）である。前野氏は父に1項を設けて、「昭和21年6月最終日

曜日、ウォロシロフ、銃殺刑の判決」の次第、父の人となり、思考、行動について誠意をこめて記述されていた。しかも、これは再版で、初版は『生ける屍<ソ連獄窓十一の記録>』と題して、昭和36年2月5日、春秋社より発行された。

私たちは、何と20年も遅れてこの情報に接したわけで、昭和34年の公報直後に詳細な事実を知り得たのだ。私たちは哑然呆然とし、霊園の墓石の刻字を訂正することも思い及ばなかった。

以来10年、父の無念を知り得たものの、銃殺刑執行も、埋葬場所についても不明なまま墓参を行ってきたものの、けじめをつけられず、私は月を見る度に迷妄を断てずにいた。(つづく)

《つぶやき》

●部屋のカレンダーに、例会の日をPBと記しておいたら、訪ねてきた友人が「このPBとは何か」と聞く。プロバスの説明をすると「俺はプレイボーイの日かと思った」と言うのである。こちらはすでに後期高齢者の中堅で、使用期限はとうの昔に切れた人畜無害の身ではあるが、以下、プレイボーイで鳴らした蘊蓄を傾け、易しい艶笑譚を論じたのである。

*ある白人夫婦によりやく子供が授かった。しかしこの子の皮膚は黒かった。夫が妻をとがめた。「これはみんなお前のせいだぞ。ベッドに入るごとにお前が電気を消すからだ」

*ある美人作家が船で旅に出た。彼女は日記を書く習性があるが第一日には、今日は、たまたま船長に会った。第二日、幸運にも船長と晚餐をともにした。第三日、船長が船内をくまなく案内してくれた。第四日、船長は自分の部屋に私を案内し私に迫った。これは全く彼のような身分の人のなすべき行為ではない。第五日、彼はきょうも私に迫り、私が色よい返事をしなければ船を沈没させるといった。第六日、私は全船の人を救った。

*子供「パパ、あの人達は どうしてウシの腰をなでたり、お尻をたたいたりしてるの」。父親「あれはウシを買おうとしているんだ」。数日後、子供「パパ、裏のおじさんが、うちのママを買おうとしているよ」

*近所のおばさん「坊や、こんな寒い日に玄関口で何してるの、何でお家に入らないの」子供「パパとママが喧嘩しているの」。おばさん「みっともない、坊やのパパは誰」。子供「それが二人の喧嘩の原因なの」

友人は次回には難しい艶笑譚を聞かせてほしいと笑って帰ったが、この種の笑い話は世界中に分布していて、特にイギリス、フランス、中国には数世紀にわたって蓄積された文献？が多い。何時の世も変わらぬ人生の隠し味であろう。(S)

●プロバスクラブは「固有名詞の個人の集まり」、クラブの財産は「人財産」のみ。

プロビアンは、時として意見の違いはあっても利害の対立は無い。クラブは、すべからく「明るく」、「楽しく」、「生き生き」とありたいもの。

(T. S)

●今に続く師弟の交流

2年前、プロバスクラブの生涯学習サロンで、上杉鷹山の師、細井平洲の話をしました。私は、その時の準備のため、平洲の出身地、愛知県東海市の市立平洲記念館を訪れた際、館長に大変お世話になり、その御礼を兼ね、今年5月31日、平洲祭に行ってきました。東海市では、毎年5月に細井平洲の遺徳を偲び平洲祭を行っており、今年は平洲歿後210年ということで、上杉家17代当主上杉邦憲氏の講演等、催しも盛大で、米沢からは30名ほど参加しました。秋には東海市から米沢に出向く、また東海市の中学3年生の修学旅行先は米沢と、両市の交流は盛んです。上杉鷹山が細井平洲を師として敬った師弟関係が、現在米沢市と東海市が姉妹都市としての形で続いている事に改めて感動です。(Y)



編集後記：

情報委員長、情報委員の方のアドバイスを頂き編集しました。色々有難うございました。情報委員 阿部幸子